

『ワゴンR』窃盗団 静岡・愛知で犯行100件以上か

2010年4月22日

スズキの軽乗用車「ワゴンR」が狙われた連続盗難事件で、浜松中央署などに逮捕された窃盗団の男らが、キーシリンダーを壊す手口で犯行に及んでいたことが分かった。多くの乗用車にはキーを抜くと内部でハンドルを固定する盗難防止装置が付いているが、男らは装置をシリンダーごと外していたとみられる。同署などはハンドルを外側から固定する「ハンドルロック」の取り付けなどの防止策を呼びかけている。

窃盗の疑いで逮捕されたのは、いずれもブラジル国籍の▽板金業ウエタ・マルセロ(38)＝浜松市南区遠州浜▽工員ウエタ・セルジオ(34)＝湖西市鷺津▽同マルヤマ・アチラ・ダ・シルバ(30)＝愛知県豊川市千両町▽同ダ・クルズ・グレイディス・シマラ(44)＝浜松市西区篠原町の4容疑者。

逮捕容疑は2月23日夜から24日朝にかけて、湖西市内の駐車場で、男性会社員(51)の軽乗用車1台(80万円相当)を盗んだとされる。セルジオ容疑者は容疑を認め、他の3容疑者は否認している。

捜査関係者によると、犯行当時、男性の軽乗用車は自宅敷地内の駐車場で施錠されていた。セルジオ容疑者は窓ガラスを割り、シリンダーを内部ロック装置ごと破壊して外し、配線を直結していた。

4人は静岡、愛知両県で盗んだ車両をマルセロ容疑者が実質経営する愛知県豊橋市の工場解体したり、県境を中心にした犯行現場付近の路上で部品を取って車両を遺棄するなどして、100件以上の犯行を重ねていたとみられる。

盗んだ部品は、10万～20万円で入手した廃車車両に取り付けて50万～60万円で転売していたほか、部品販売に回していた。一部はインターネットオークションに流れていた。

同署によると、セルジオ容疑者は「ほかにもやった」と供述しており、同署などは余罪を調べる。